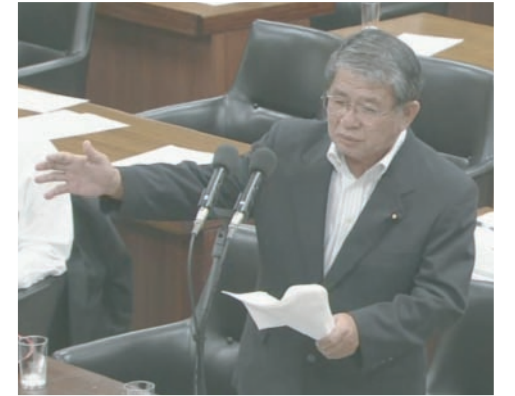


オスプレイ 配備問題

「飛ばさない」と言いながら、配備は着々と準備

県民をだまし打ちするやり方許せない！ 赤嶺議員が厳しく批判



日本共産党の赤嶺政賢議員は7月31日、衆院安全保障委員会で質問。米軍の垂直離着陸機MV22オスプレイの配備問題では、安全が確認できるまで飛ばさないとしながら、機体を日本に陸揚げし、飛行シミュレーターと思われる建造物を設置するなど、政府は「なし崩しの」に配備に向けた準備を進めていると厳しく批判しました。質問の要旨を紹介します。

墜落防止機能の「確認」は模擬訓練のみ（防衛大臣）

オスプレイの致命的な欠陥として指摘されている、墜落防止のためのオートローテーション機能の有無。赤嶺議員の追及に、森本敏防衛大臣は、「シミュレーション（模擬訓練）で体験することを通じて練度を高めるシステムになっている」と答弁。赤嶺議員は「オスプレイはシミュレーションの世界を飛ぶのではない」と厳しく批判しました。オスプレイの自動回転機能は、危険すぎて実証できないことを事実上認めたとはいえます。

●赤嶺議員 先の予算委で質問したオスプレイのオートローテーション機能が実証されているのかを米側に確認したか。

●森本大臣 かねてより、米側は機能はあると説明。シミュレーションで体験し、どのように機能するか確かめようと考えている。

●赤嶺議員 シミュレーションの世界でしか再現できないのか。

●森本大臣（米側には）予備着陸あるいは緊急着陸を実際の飛行機でやる考え方はない。部品が欠損し、機体が損傷する可能性があるもので、シミュレーションで体験することを通じて練度を高めるというシステムになっている。

赤嶺議員は、このシミュレーション訓練を行うためのコンテナが、オスプレイ配備が狙われる米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）に搬入されているのではないかと追及。米軍が作成した環境審査（レビュー）で示されているコンテナ型シミュレーター（模擬操縦装置）の設置場所へ、類似した建造物が設置されているとの報道を示して迫りました。

●赤嶺議員 那覇港にコンテナが陸揚げされ、普天間基地内のシミュレーターを設置する場所に置かれていることが報道されている。

●森本大臣 確認していない。シミュレーターがすえつけられるのは、飛行の安全に全体として寄与する。パイロットの練度を一定に維持するためにごく自然の措置。

●赤嶺議員 米兵の練度向上が沖縄では事件・事故につながってきた。日米安保と県民の命とどっちを大事にするのか、二者択一のところまで、ぎりぎりまで問題は来ている。

県民をだまし討ちのようにシミュレーターを持ち込んでくる、そして普天間基地でオスプレイが訓練するのは当たり前のような、その上に普天間基地をオスプレイ用に改修する、こういうことは絶対に許されない。

与那国島の自衛隊配備問題 政府は住民意思を尊重せよ

赤嶺議員は、同委員会質問で、沖縄県・与那国島への自衛隊配備問題を取り上げ、配備の是非を問う住民投票条例の制定を求める署名が提出（7月24日）されたとして、住民の意思を尊重するよう求めました。

質問のなかで赤嶺議員は、「（署名は）588人分で、有権者のほぼ半数にあたる。島の将来は島の住民自身が決めたいという意思の表明だ」と強調。他方で、防衛省が自衛隊配備に関する住民説明会（昨年11月）に先立ち、昨年10月に環境現況調査に着手している事実を指摘し、「住民の意思を尊重する姿勢が全く示されていない」とただしました。

渡辺周防衛副大臣は「住民説明会で必要なことを伝えられるように資料を集めている」などとごまかしました。

赤嶺氏は、同県名護市で新基地建設の是非をめぐる行われた住民投票に当時の防衛施設局の職員らが介入した事例などをあげ、「住民投票の前に既成事実をどんどん積み上げていくのは、住民の意思を尊重する態度ではない」と厳しく批判しました。

